

〈推進委員会報告〉

教育会あり方検討委員会

委員長 中山 和己

一 研究テーマ

「魅力ある教育会のあり方を求め、伝えていく」

二 研究のねらい

教育会あり方検討委員会では「魅力ある教育会のあり方を求め、(より多くの先生方に会員になっていただけるように)伝えていく」という数年来のテーマを継承し、活動に取り組んできました。魅力ある教育会とは、『会員が積極的に各事業に参加し、諸活動を通してより多くの先生方と出会い、研修し、情報交換や研究会等でお互いが切磋琢磨し、高め合える仲間関係を築いていかれる会』ではないかと考えます。そして、そのことが子どもたちへの今後の指導に活かされるとともに、私たちの職能の向上につながっていくものと確信しています。

そこで、本委員会では、他郡市から来られた先生方や新規採用の先生方に、更埴教育会の魅力や内容を知っていただいた上で多くの先生方に会員になっていただくためにはどうしたらよいかについて考えました。また、現在会員の先生方に対しても、さらに良い点を知っていただくにはどうしたらよいかについて考えました。そして、その視点から本年度行われた教育会の行事や事業内容を検討しました。

加えて、一般社団法人化に伴う「公益性を加味した教育会の今後のあり方」についても提案することをねらいとして、本年度の活動を行ってきました。

三 研究の経過

1 本年度の研究事項

(1) 各事業のよさを伝えていく

- ① よさは何か …調査委員で分担し、各事業のよさを調査・研究。
- ② よさを伝える …伝え方を検討。年3回の「教育会だより」の発行・リーフレットの配布。

③ 加入の呼びかけ…各校代議員の協力、教育会だよりやリーフレットの配布。

(2) 教育会長から諮問された内容について、研究・調査し、答申する。

(3) 「魅力ある教育会のあり方」を教育会に提案していく。

2 研究の経過

(1) 第1回委員会 5月 1日(月)

組織づくり。研究内容の決定。研究推進日程の決定。

(2) 第2回委員会 6月15日(木)

今後の推進計画の立案。調査・研究の方法と分担。

教育会だより第1号の内容検討。〔7月発行〕

- (3) 第3回委員会 9月26日(火)
調査・研究について報告。教育会各事業の良さの確認と改善点の内容検討。
教育会だより第2号の内容検討。〔10月発行〕
- (4) 第4回委員会 11月16日(木)
中間報告書の内容検討。
教育会だより第3号の内容検討。〔11月発行〕
- (5) 第5回委員会 1月18日(木)
来年度の教育会リーフレットの検討。
調査・研究のまとめ(研究報告書の内容検討)。
本年度の活動反省と次年度への要望について。

四 研究内容および答申(今後の課題を含む)

11月20日(月)の教育会理事会および総会へ、次の内容を「中間報告書」として提出しました。

1 教育会総集会・新入会員歓迎会についての提言

- (1) 開催日は、参加しやすいように、今後も5月第3土曜日の午後を基本とする。
- (2) 教育会総集会は、会員の研修の場として大事な位置づけになっている。今後も、意義・内容について各校へ早めに働きかけていくことが大切である。
- (3) 研究視察報告は、県外の様子を知る上で貴重な機会である。また、意見発表や教育研究会の発表は、同じ教育会の会員の具体的な実践を聴くことができる機会である。会員に教育研究会の活動内容を知らせていくよい機会でもある。これらの内容は、今後も更埴教育会会員の活動内容を発表する場として大切にしていく。
- (4) 講演会は、会員の希望をもとに、会員も一般参加者も聴きたくなる講師を選定していく。また、社団法人として、チラシ、ポスター、ホームページなどを使い、一般参加者に積極的に広めていくようにする。
- (5) 懇親会・新入会員歓迎会は、学校や経験年数にかかわらず、会員相互のコミュニケーションを深める場として今後も大切にしていく。

2 教育を語る会についての提言

- (1) 講師の宮下先生は本年度で3年連続となったため、来年度は違う講師の方をお願いしていくようにする。
- (2) 他都市から来られた先生方にとっては、更埴独自のこの会がどういう会なのかわかりづらく、参加意欲が持てない姿も見られる。PR活動を工夫して参加者を増やしていく必要がある。たとえば、参加者が必ず書く感想記入用紙の中で、「出てよかった」という生の声を、ホームページで紹介していくことは、有効であると考えられる。
- (3) 分散会の運営については、司会者の先生に任せられるところが大きい。世話係の先生、記録者の先生も含めて、運営側が負担に感じるような会にしないような工夫が必要。一番大切なこととして「参加者が語りたことを自由に語れる雰囲気作り」を心がけるようにしたい。

3 教育研究集会についての提言

- (1) 更埴教育会だけでなく、他団体やP T Aの方々にも参加していただき、更埴地域全体の教育力向上について意見交換を深めていく上で、他団体やP T Aとの連携を一層大切にしていき、参加要請を積極的に行っていく。
- (2) P T Aの方の参加については、学校によって呼びかける範囲や方法が異なり、参加者の人数に差がある。参加範囲を広げるなど、より多くのP T Aの方に参加していただけるような要請のあり方を各校で工夫していく。さらに、各校にすべて任せるのではなく、郡Pを通して各校の参加者にあまり差が出ないよう協力を依頼する等の配慮が必要である。
- (3) 分科会の参加人数に大きな偏りがなく、どの分科会も充実したものとなった。しかし、年々、参加者にレポートをお願いするのが大変になってきている現状がある。レポートの発表だけでなく、体験的な活動を取り入れたり、講師の方に専門的なお話をお聞きしたりするような内容面での工夫をしてきたことで、「楽しく参加できた」「理解が深まり有意義だった」などという感想が多く寄せられている。レポートだけでなく、参加者が関心を持って参加でき、参加して良かったと思えるような内容や運営を工夫していきたい。
- (4) 会場については、屋代中・戸倉上山田中・坂城中・更埴西中の4校で、この順番で回していくことでよい。ただし、戸倉上山田中学校は校舎改築が完了する平成31年度まで、順番を飛ばして回していくようにする。

4 教育研究会についての提言

会員数が今年度は増加となったが、実際研修会等に参加されている方の会員数は、あまり変化が見られないところもある。そのための方策も検討課題。

- (1) 以下の方法により、教育研究会の活動内容をPRしていく。
 - ・教育会総集会の発表により、会員みなさんに教育研究会の活動について具体的に知っていただく。
 - ・会誌やリーフレット等で、それぞれの教育研究会の活動時期、活動内容について知っていただく。
 - ・教育会のHPにある教育研究会の情報サイトにより、それぞれの教育研究会の活動内容について知っていただく。
- (2) 教育研究会の加入者を増やしたり、活動を充実させたりしていくためには、会員同士の積極的な声かけがとても重要である。会誌やリーフレット等を見ていただくことも一つの方法だが、教育研究会の魅力や活動内容を直接聞くことによってより具体的にイメージでき、加入に直接結びつくことと思う。とくに若い先生方に声をかけて、組織の活性化を図りたい。
- (3) 事務局の先生方は、研修会の段取りをしたり通知を配付したりと、各教育研究会の充実した活動のために大変骨を折ってくださっているが、なかなか人の入れ替えが無く、毎年同じ方が事務局を繰り返し担当している教育研究会もある。そこに「教育会だより」「リーフレット」「会報・会誌」等、事務局の先生方に何度か原稿依頼がなされることは、PR活動とはいえ負担感を増してしまうおそれがある。PR活動のより良い仕方を、今後模索していく。

5 全郡研究会についての提言

- (1) H27年度より全郡研究会の会場校が4校となったことで、教育課程研究協議会・全郡研究会の指定を受けない学校ができ、自校の課題解決に迫る研究を学校全体で取り組むことが可能となった。その良さを継続し、全郡研究会会場校は4校が妥当と考える。先生方の負担軽減の視点から考えると、将来的には「4校→3校へ」減らしていくことも検討していきたい。(3校にする場合は1校120～130名の参加者になることが予想される)
- (2) 全郡研究会は、あくまで「学校独自の教育課題解決に向け、学校全体で取り組んでいることが、研究の中核に据わった公開であること」を引き続き各校に徹底する。但し、会場校数を減らすためには、100名超の参加者を受け入れられる公開授業を計画的に工夫していく必要がある。

6 会誌・会報・社会科資料集等の出版物についての提言

- (1) 会誌・会報は
 - ・「会報」等については、冊子形式や紙質及び写真数やページ数の見直しをしていく時期だと思われる。経費のかけ方について、法人化との兼ね合いで、周知再確認が必要かと思われる。
- (2) 社会科資料は
 - ・「郷土をひらいた人」の項目を新設し、さらに使いやすい冊子を目指したい。
 - ・今後も存続させたい資料集なので、単価を下げるため、教育会からの補助があるとよい。単価を上げないためにも、各小学校での採用をPRしていきたい。
- (3) 「教育会だより」は、
 - ・「会報」や組合等からの情報と重なる部分があり、原稿を依頼される方の負担を考えると、その必要性を検討したい。もし、更埴教育会の活動の良さをアピールするものにしていくとして存続させるなら、会員への配付でなく教職員全員への配付を考えていくのがよい。
- (4) 更埴教育会リーフレットは、
 - ・会員増に向けて、見やすくわかりやすい内容になるよう、工夫していく。

7 ホームページについての提言

- (1) 各教育研究会の活動の様子・感想等をホームページにアップし、教育研究会のよさをPRしていく。
- (2) 学習指導案や学習カード、実践事例の紹介などを掲載し、ダウンロードできるようにする。

五 委員会の構成

世話係	南澤 博 (南条小学校長)	
委員長	中山 和己 (戸倉上山田学校)	
副委員長	西沢 和彦 (村上小学校)	
委員	田中 隆久 (更級小学校)	栗田 哲之 (屋代小学校)
	宮坂 宏 (五加小学校)	山本 直佳 (八幡小学校)